

文化財審議会（令和7年8月12日）議事録

<出席者>

伊集院委員、眞田委員、佐野委員、永嶋委員、西川委員、藤木委員、古里委員

<欠席者>

<文化・スポーツ課>

菊地部長、永田課長補佐、今野係長、手嶋主任、稲村主任学芸員、柏瀬主任文化財主事

事務局 本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。本会は、令和7年度の第1回目の文化財審議会になります。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは会議の進行にあたり、本日は、任期満了に伴い新委員としてご出席いただいております。『我孫子市文化財の保護に関する条例』第21条では、会議の議長は会長が行うこととなっておりますが、議題の1)で第20条に基づき会長と副会長を決めていただくまでの会議の進行は、事務局の永田が務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、我孫子市情報公開条例第18条に基づき本会を公開するにあたり、傍聴人について報告いたします。傍聴人の方は、1名です。傍聴人の入室を許可してよろしいでしょうか。傍聴人の方は、傍聴要領に従って傍聴してください。

それでは、会議に先立ちまして生涯学習部長の菊地よりご挨拶申し上げます。菊地部長宜しくお願いします。

菊地部長 生涯学習部長の菊地と申します。宜しくお願い致します。

我孫子市では、昨年度、布佐にある「榎本家住宅」が市内では2例目となる国の登録文化財となりました。こちらにつきましては建築がご専門の藤木委員に大変お世話になり、誠にありがとうございました。

また昨年度、長く委員を務めておられた、梅村・浅間両先生がご退任されました。それに伴いまして今年度から歴史分野がご専門の伊集院委員と自然分野がご専門の永嶋委員に新たに本審議会に加わって頂いております。皆様これから2年間どうぞ宜しくお願い致します。

我孫子市は今年市制施行55周年を迎え、それに伴い今年度多種多様なイベント等を開催しております。文化・スポーツ課でも既に一部報道発表もされていますが、市内で志賀直哉の小説『暗夜行路』の草稿が発見されまして、これに合わせて秋に白樺文学館で特別展を開催する予定です。

また我孫子市では、昨年度「我孫子市文化財保存活用地域計画」に基づき、「我孫子市文化財ボランティア」を新たに発足し、文化財施設への来館者に解説を行う「ガイドボランティア」と市内の古文書などの資料整理をお手伝い頂く「資料

調査ボランティア」が活動を開始しました。現在は「ガイドボランティア」が35名、「資料調査ボランティア」が34名の方にご参加頂いております。今後もこのような文化財の周知活動について積極的に行って参りたいと思います。それでは皆様、本日は是非、活発な議論の程、宜しくお願い申し上げます。

事務局 それでは資料を確認させていただきます。お手元に配布させて頂いております資料で、まず「会議次第」が1枚、続きまして資料1-1「延命寺仏像文化財指定調書」こちらが5枚あります。続いて資料1-2の「旧布佐観音堂仏像文化財指定調書」が3枚になります。

次に資料2-1及び2-2としまして「我孫子市指定文化財の指定について（諮問）」が1枚ずつになっております。

次に資料3-1及び3-2としまして「我孫子市指定文化財の指定について（答申）案」が1枚ずつになっております。

次に資料4としまして「報告事項」が両面で2枚になります。

次に資料5としまして、「令和6年度埋蔵文化財発掘調査について」が両面で1枚になります。お手元に資料はお揃いでしょうか。

それでは資料の確認は以上になります。

事務局 今回、5月末日をもちまして前任の委員任期が満了となり、眞田委員・佐野委員・西川委員・藤木委員・古里委員の5名につきましては再度、委員のお願いをしましたところ、ご承諾をいただき、ありがとうございます。また昨年度をもちましてご退任されました梅村先生・浅間先生の後任として、本年度新たに2名の方を文化財審議会委員としてお招きさせて頂いておりますので、順にご紹介させていただきます。

まず梅村恵子先生の後任として、歴史分野の伊集院葉子委員になります。伊集院委員は、日本古代女性史がご専門で、現在専修大学及び川村学園女子大学にお勤めでいらっしゃいます。それでは伊集院委員、一言お願い致します。

伊集院委員 ただいまご紹介にあずかりました伊集院葉子でございます。専門はご紹介と重複しますが日本古代史で、主に文献資料の研究をしております。これから2年間どうぞ宜しくお願い致します。

事務局 ありがとうございます。続きまして、浅間茂先生の後任として、自然分野の永嶋幸夫委員になります。永嶋委員は、植物がご専門で、現在千葉県立柏中央高校にご勤務の傍ら、千葉県生物学会や公益社団法人 植物友の会でご活躍されていると伺っております。それでは永嶋委員、一言お願い致します。

永嶋委員 永嶋幸夫と申します、どうぞ宜しくお願い致します。ご紹介にもありました通り、前任の浅間先生が学校の教員としても、また千葉県生物学会でも大先輩でございまして、様々な面で一緒に活動させて頂きました。今回浅間先生が長く委員を務められたということで、私をご紹介頂いたのかなと思っております。微力ではございますが、生まれながら我孫子に暮らしておりますので、そういった点でもお力になればと考えておりますので宜しくお願い致します。

事務局 皆様これから2年間ご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

委嘱状に関しては、本日配布資料と一緒に委員の皆様方のお席に置かせて頂いておりますので、ご査収のほどよろしくお願い致します。

令和7年度の文化・スポーツ課のスタッフを紹介いたします。本日所用で欠席しておりますが、文化・スポーツ課長は昨年度に引き続き、辻が務めます。課長補佐も引き続き私永田が務めさせていただきます。また今野係長、手嶋主任、稲村主任学芸員、柏瀬主任文化財主事も引き続き現職を務めます。

それでは議題に入りたいと思います。議題の1) 会長・副会長の選任に移りたいと思います。こちらにつきましては、条例第20条の規定により委員の中から互選となっております。いかがお取り計らいいたしましょうか。

事務局 立候補等ないようですので、それでは事務局から腹案を示させて頂いて宜しいでしょうか。事務局の腹案としましては、古里委員に会長、西川委員に副会長をお願いできればと考えておりますがいかがでしょうか。

拍手

事務局 ありがとうございます。それでは会長・副会長におかれましては、所定の席へお移りください。また以降の会議の進行をお願いいたします。併せまして菊地部長と私永田は別の公務の関係で、ここで退席させていただきます。

古里会長 今期の会長を務めさせていただきます。宜しくお願い致します。では、次の議題に入ります。議題2) 指定文化財についてということで、延命寺仏像文化財指定調書並びに旧布佐観音堂仏像文化財指定調書について、事務局から説明をお願いします。

事務局 昨年度に開催した前回会議におきまして、こちらの2件について文化財指定に向けて、眞田委員に作成して頂いた調書案について委員の皆様を確認して頂きました。そこで出たご意見及びその後に眞田委員に行って頂いた追加の調査の結果を踏まえて、追記修正を行った調書が資料1-1及び1-2になります。そちら

の調書を一式としまして、教育長 丸 智彦より本会へ文化財の指定についての諮問が提出されております。資料2-1、2-2をご覧ください。諮問書の原本につきましては、会議後に古里会長へお渡しさせていただきます。

それではまず眞田委員より改めて調書の説明をお願い致します。

眞田委員 資料1-1をご覧ください。こちらが延命寺というお寺の文化財指定調書になります。1) 種別 有形文化財(彫刻)。2) 名称及び員数 こちらは仏像が複数ありまして、それぞれア) 木造虚空蔵菩薩坐像(虚空蔵堂本尊) 1 軀、イ) 木造虚空蔵菩薩坐像(虚空蔵堂本尊前立) 1 軀、ウ) 木造薬師如来坐像(本堂本尊) 1 軀、エ) 木造如来坐像(虚空蔵堂所在) 1 軀の計4 軀となっています。3) 所在の場所は延命寺となっています。4) 年代につきましては、ア) が江戸時代後期、イ) が室町時代後期から江戸時代前期、ウ) が江戸時代前期から中期、エ) が江戸時代前期というような製作年代が推測されています。今期から新しく委員になられた先生もいらっしゃいますので、少し長くなりますが概要と所見についても読み上げさせていただきます。

5) 各像の概要と所見 まずア) の像についてご説明致します。像高は28.2 cm。頭部をやや前傾し、右手は右膝上で宝剣を執り、左手は掌を仰いで如意宝珠を持ち、右足を上にして蓮華座上に結跏趺坐する。写真では宝冠をかぶっているので見えませんが、頭頂に髻を結い上げて宝冠を戴き、天冠台をつける。上半身に覆肩衣という右肩を覆う衣と衲衣、所謂袈裟をまとい、下半身には裙という衣を着しています。胸飾をつける。像の構造は一本の材から全体を彫り出す一木造で、頭体幹部は一材から彫出し、両手首先、右腰部、膝前にそれぞれ別材を寄せる。膝前材底部には三角形の浅い内刳を三箇所に施す。写真でお分かりになるかと思いますが像表面の漆箔及び頭髪の群青彩は近代の補修によるもので、金箔に厚く覆われているために現状の面部や衣文などは形状が曖昧となっている。宝冠・天冠台・白毫・胸飾・持物も後補となっています。資料2枚目の写真には像底が写っていますが、こちらで内刳が確認できるかと思っています。作行や構造から制作時期は江戸時代後半とみられます。虚空蔵堂中央の厨子内に安置され、通常は秘仏として厨子は扉が閉じられています。住職一代につき、一度限りの御開帳とされているとのことです。

次にイ) の像についてです。こちらはア) の本尊のお前立になります。像高22.3 cm。右手に剣、左手に宝珠を持って蓮華座上に結跏趺坐する。頭頂に髻を結いあげ天冠台をつけ、上半身に覆肩衣と衲衣をまとい下半身に裙を着して胸飾をつける。基本的に本尊像と同様の姿であるが、本像は宝冠を被らないという違いがある。近代の補修により像と台座蓮肉部が固く接着されていて分離できない。また像全体が厚い金箔に覆われているために、構造把握が困難だが、頭体幹部は一材からなり、襟元で差首とし、面部は耳前で前後に割り矧ぐとみられる。玉眼

を嵌入する。両手首先、膝前、右腰部に別材を寄せる。

面長な顔の輪郭、切れ長で吊り上がった目、太い鼻梁、着衣の形式、整理された衣文などから、制作年代は本尊よりも先行する室町時代後期から江戸時代前期に位置付けられる。虚空蔵堂本尊像の中央厨子の前に置かれた小厨子内に開扉した状態で安置されている。

次にウ)の像についてです。こちらは本堂の本尊像になります。像高28.5cm。腹前で定印を結んでその上に薬壺を載せて蓮華座上に結跏趺坐する。上半身には覆肩衣と衲衣を着し下半身に裙を着す。通形の薬師如来像は、右手は五指を伸ばす施無畏印をあらわし左手に薬壺を持つが、本像のように定印に薬壺を載せた像は「定印薬師像」呼ばれる。本像は近代の修復による像表面全体を厚い金箔が覆うが、面部は頬に張りがあり伏目がちながら目尻の吊り上がった目や肉づきの良い顎などに力強さがみられる。衣文は流麗さもあるが形式的に整理されており彫りにも硬さがある。玉眼嵌入。構造は複数の木材をつなぎ合わせる寄木造で、頭体幹部は前後二材で耳後で矧ぎ寄せ、三道下で差首とする。両肩から左右腰部にそれぞれ別材を寄せ、膝前とその上部にあたる両臂先から両手印相部および薬壺部分もそれぞれ別材だが、ともに近代の修理により新補とみられる。

面部や衣文の表現、構造などから像の制作年代は江戸時代前期から中期頃と推測される。

明治21年(1888)の什器帳に「薬師如来、木仏坐像壺体、但御丈ケ一尺、作人杉山宗哲、求主拾壺世麟応」と記されている。この杉山宗哲については飯白和子氏による報告があります。宗哲は布佐村の仏師杉山家の家督を継いだ仏師で、文化14年(1817)ごろの生まれという。このことから明治の什器帳の記載は修理を意味するものであろう。なお本像の旧厨子には文久元年(1861)大仏師与七の銘があり、こちらは厨子の制作の記録とみられるが、宗哲による像の修理もこのときの可能性が高い。さらに本像は昭和61年(1986)の本堂改築落慶にあわせて行われた修理で現状の姿となった。通形の薬師像と比較すると定印薬師像の作例は稀少だが千葉県内にも作例が複数現存する。本像は数回の修理を経るなかで印相部も新補されているため、当初の像容は不明。

最後にエ)の像になります。こちらは虚空蔵堂に所在している木像如来坐像です。像高17.4cm。左手を左腿上に置き、右足を上にして結跏趺坐する如来形の坐像。右肩から先と左手首先を欠失しているため尊格不明。全体的に端正に整えられ、眼の見開きが浅い穏やかな表情や流麗な衣文は平安時代後期に広く普及した定朝様を継承しているが、衣文の彫りには硬さもみられる。また地髪部前面が低く髪際が額中央部でわずかに下がる点、面部の輪郭、膝前の奥行きを大きくとる点などから、江戸時代前期の復古作とみられる。構造は頭体幹部を一材から彫出する一木割矧造で、三道下で差首。玉眼を嵌入する。この玉眼の嵌入は追加の調査で判明したものになります。左右腰部、膝前、裾先にそれぞれ別材を寄せ

る。像底は布張のうえに漆塗。像底の体部背面側中央に柄穴があり、台座と固定するとみられる。こういった柄穴は、像内部まで貫通していることがあり、その際は、ファイバースコープなどで像内部の銘文等が読み取れる場合があるのですが今回の像に関しては残念ながら柄穴が内部まで貫通していませんでした。後補の水晶製白毫嵌入。肉髻珠欠失。現状の像表面は肉身部を漆箔、衣部は黒漆塗とするが、衣部には漆の下に彩色や金泥による唐草等の文様の痕跡がみられる。この文様についても追加の調査の際に赤外線を確認できたもので、元々は彩色されていたことが分かります。

6) 所見 明治期の『寺院明細帳』に記載される寺伝によれば、延命寺は文禄2年(1593)3月の創建で、開山は忠変僧都という。寛永7年(1630)の検地記録や翌8年起草の過去帳が存在するため、17世紀半ば以前に同寺が建立されていたことは確かである。貞享元年(1684)に規模は不明ながら罹災するも元禄4年(1691)には復興され、宝暦12年(1762)第五世権大僧都隆宣の時代には伽藍は虚空蔵堂、釈迦堂、観音堂、客殿、庫裡、惣門から構成されており寺勢が隆盛していた様子がうかがえる。その後、安永3年(1774)に再度火災に遭い、虚空蔵堂・釈迦堂が焼失したが像は救出されたと伝えられ、天明3年(1783)に虚空蔵堂は再建されている。しかし明治37年(1904)4月23日の布佐の大火で虚空蔵堂は類焼し、さらに関東大震災による工事中の倒壊を経て、昭和8年(1933)に現堂が建立され今に至っている。一方、現在の本堂は明治15年(1882)建立の薬師堂を前身とし、昭和61年(1986)に改築落慶した。

このように延命寺は幾度となく罹災しているが、その度に復興して現在に至っていることは、創建から現在まで絶え間なく信仰を集めてきた証左である。そしてその同寺の信仰の中心を占めてきたのが虚空蔵菩薩信仰であり、ア)木造虚空蔵菩薩坐像およびイ)木造虚空蔵菩薩坐像はその拠り所の像として今に伝来している。虚空蔵菩薩信仰は奈良時代から国内での信仰が広がっていくが、我孫子では近世に民間信仰としても大いに流行している。したがって本像は我孫子における虚空蔵信仰のあり方を考える上で非常に重要な存在といえる。制作年代は前立像であるイ)像が本尊よりも先行するが、その経緯は同寺虚空蔵堂の罹災・再建や本尊の秘仏化を考慮すれば様々なケースがあり得るだろう。

ついで、天明4年(1784)の『什物改帳』には「本尊薬師如来、隆宣細色」とあり、この頃の同寺本尊として薬師如来像も祀られており、宝暦年間の第五世隆宣の時代に彩色が施されたという。つまりこの薬師像の造立自体は隆宣の時代を遡る可能性が高い。そして同寺は天明の再建以後、虚空蔵信仰に加えてこの薬師像の眼病治癒の効験でも広く信仰を集めるようになったとされている。この薬師像に該当するのがウ)木造薬師如来坐像である。ウ)像は複数回補修を経ているために当初の像容に未詳な部分が多いが、定印に薬壺を載せるという通形

ではないやや特殊な本像は、病に苦しみ、たしかな治癒の効験を求めて参拝する数多の人々に信仰されてきた。

また『寺院明細帳』には「阿弥陀堂、本尊阿弥陀如来但木像、由緒、此阿弥陀ハ当寺七世隆宣法印守本尊ニシテ宝暦年中堂宇ヲ結ビ安置セリ」とあり、かつて寺内にあった阿弥陀堂及び阿弥陀像についての記述がある。『我孫子市史 民俗・文化財篇』（1990年、以下『市史』）では、延命寺が文政6年（1823）成立の「総州六阿弥陀詣」の二番札所だったことから（現在も境内に石碑あり）、この阿弥陀堂の像が札所の本尊に当たると推測している。さらに『市史』では、現虚空蔵堂須弥壇内部に安置されている破損仏群の中に像高23.5cmの阿弥陀像があり、それが上記阿弥陀像に該当すると述べている。

令和6年11月29日実施の調査において同須弥壇内部からエ) 木造如来坐像があらためて確認された。エ) 像の像高は17.4cmと計測されており、『市史』の指摘した像とは大きさに約6cm程の違いがあるものの、他に該当する如来像は見当たらないため、ひとまず両者は同一とみてよいと思われる。

本像は現状で両手先を失っているために阿弥陀如来と断定することはできないが、江戸時代前期の復古作として作行に優れており、阿弥陀像であったとすれば同寺中興の隆宣の守本尊の伝承や総州六阿弥陀札所本尊として相応しい出来栄の像といえる。

延命寺の信仰は布佐を拠点にして幅広い地域に波及してきており、ア)～エ)いずれの像もその信仰の歴史を今に伝える重要な作例であり、我孫子市の有形文化財として貴重である。

続けて資料1－2の説明に移ります。旧布佐観音堂仏像文化財指定調書になります。1) 種別 有形文化財（彫刻）。2) 名称及び員数 木像馬頭観音坐像1軀。3) 所在の場所 布佐延命寺（旧布佐観音堂）。4) 年代 江戸時代中期。5) 像の概要と所見 像高22.3cm、三面三目八臂。頭上に馬頭面を戴き、本面は開口した忿怒相をあらわし、胸前で左右第一手は馬口印を結び、蓮華座上に右足を上にして結跏趺坐する。頭髮は炎髪で天冠台をつける。左右脇面も忿怒相をあらわすがいずれも口は閉じる。上半身には覆肩衣と衲衣をまとい、下半身に裙を着す。胸飾をつける。脇手は、右第二手は持物欠失（宝剣か）、第三手は鉞斧を執り、第四手は与願印を合わす。左第二手は持物欠失（輪宝か）、第三手は宝棒を持ち、第四手は羂索を執る。

像の構造は、頭体幹部を一材から彫出し、本面は頭上の馬頭面までを含めて彫出した別材を矧ぎ、左右脇面も別材でつくり本面の鬘髪の後ろそれぞれ矧ぐ。左右腰部に三角材を矧ぎ、膝前に一材を矧ぐ。三道下で差首とし、本面三眼に玉眼を嵌入する。脇面はいずれも彫眼。体幹後方材の背面側には襟下部から腰部に至る大きさの背面材を矧ぎつけ、同材の左右側面に穿たれた丸穴に脇手が挿入されている。体幹材の前面側底部は内刳されるが、この内刳は像を台座に固定するた

めの柄穴の役割をなしており、台座蓮肉部中央内部から一部を突出した石材が柄の代りになっている。石材は大部分が台座内部に埋め込まれており、現状では詳細不明。像表面は後世の補修により肉身部を漆箔、それ以外を古色仕上げとする。制作年代は江戸時代中期とみられる。

6) 所見 本像を主尊として祀ってきた布佐観音堂は『我孫子市史 民俗・文化財篇』（1990年、以下『市史』）によれば創建の時期は不明とされるが、安永4年（1775）設立の相馬霊場には第58番札所とされているため、それ以前の建立になるのはたしかであろう。現在の堂宇は昭和34年（1959）の再建であり、当初の堂は現在地よりも南東に位置していた。

江戸時代、銚子沖で採れた魚は利根川水運を利用して輸送されたが、布佐河岸でいったん陸上げされて松戸河岸までの約8kmは通し馬で陸路を運搬し、その経路は鮮魚街道（なまみち）と呼ばれた。そのため、布佐観音堂は鮮魚街道の運搬に貢献した数多の馬たちを供養するために街道の起点に建立され、その主尊として馬頭観音像が祀られたと考えられる。馬頭観音信仰は奈良時代には日本に流入し、中世になると六観音の一尊として普及したが、近世には六道のうち畜生道を司る菩薩として民間信仰が広がって、家畜の守護神としての性格を備えるようになり、とくに馬の供養のために石仏や石碑の造像が盛んとなった。今回（令和6年9月6日）の調査で、本像の台座内部に石が埋め込まれており、その一部が像と台座を固定するための柄になっているということが明らかとなったが、この石ももとは馬頭観音の石仏や馬の供養碑の一部である可能性が考えられる。

さて、当初の観音堂は明治3年（1870）の利根川決壊によって破壊されたが、堂内の仏像は回収されたという。ただし本像はこの時は出開帳に出ていたので水害を免れたとも伝えられている。大正3年（1914）ごろの利根川堤防改修工事にあわせて、前年に現在地への移転が進められて民家の建物を仮堂とした。その後地元の人々や東京魚河岸の鮮魚商の寄進により、ようやく昭和34年に現在の観音堂が建造されたのであった。本像は江戸時代のある時期から秘仏とされ、現代でも昭和48年（1973）ごろから年一回4月21日の御開帳が恒例となり、毎回多くの参詣者があったという。

観音堂は平成23年（2011）の東日本大震災で多大な被害を受け、地元住民の尽力による応急処置で凌いできたが、倒壊が懸念されるために令和6年度に解体された。そこで本像をはじめとする堂内の諸像は令和6年秋に近隣の延命寺に移坐され保管されている。

本像は江戸時代から現在まで地域の人々を中心にして篤く信仰されてきた馬頭観音である。本像は布佐を起点とした鮮魚街道と通し馬の歴史を物語る貴重な有形文化財であり、とくに観音堂が解体された今となってはその存在は非常に重要である。以上になります。

事務局 眞田委員、ありがとうございます。今ご説明頂きました2件の調書それぞれにつきまして、資料2の諮問が本会に提出されております。資料2-1が延命寺仏像、資料2-2が旧布佐観音堂仏像の諮問書になります。これらの仏像に関しましては、文化財指定の手続きを進めるにあたり、所有者である延命寺さんに指定の同意書を頂いております。またこの諮問に対しまして本会よりの答申案を事務局で作成致しました。資料3-1、3-2をご覧ください。「我孫子市指定文化財の指定について（答申）案」となっております。資料3-1より文面を読み上げさせていただきます。「令和7年8月8日付け、生文第1166号で諮問のありました我孫子市文化財の指定について審議の結果、下記のとおり我孫子市指定文化財に値すると結論が出ましたので答申します。1）種別 有形文化財（彫刻）。2）名称及び員数 ア）木造虚空蔵菩薩坐像（虚空蔵堂本尊）1軀、イ）木造虚空蔵菩薩坐像（虚空蔵堂本尊前立）1軀、ウ）木造薬師如来坐像（本堂本尊）1軀、エ）木造如来坐像（虚空蔵堂所在）1軀。3）所在の場所 布佐延命寺」。

続いて資料3-2を読み上げさせていただきます。「令和7年8月8日付け、生文第1167号で諮問のありました我孫子市文化財の指定について審議の結果、下記のとおり我孫子市指定文化財に値すると結論が出ましたので答申します。1）種別 有形文化財（彫刻）。2）名称及び員数 木造馬頭観音坐像 1軀。3）所在の場所 布佐延命寺（旧布佐観音堂）」。

以上のように答申案を作成させていただきましたので、こちらの答申案につきまして、皆様からご意見を伺えればと思います。

古里会長 それでは今説明のありました答申案につきましてご意見はありますでしょうか。

佐野委員 仏教美術の調書としては眞田先生の方で申し分ないものを作成して頂いたと思います。私からは所見の江戸時代の民間信仰についてですが、延命寺のア）からエ）の仏像が示すこの寺院の性格が非常に興味深いと思います。お寺の性格というのはやはり本尊に表れますので、そこを見ると今回の延命寺では虚空蔵菩薩、薬師如来、そして阿弥陀如来が存在しています。以前、現地見学の際、気になったのは十三仏の掛け軸があったことです。虚空蔵菩薩は真言系で密教的な要素を強く持ちますが、掛け軸には阿弥陀仏も描かれていて浄土系の信仰の要素も持っていると言えます。お隣の印西市にも十三塚という史跡がありますが、この江戸時代の民間信仰、葬送儀礼・他界観と十三仏信仰というのは密接に繋がっていると考えられ、筑波山をあの世に見立てる霊山信仰観が我孫子や印西を含めた地域に広がっていたと考えられます。延命寺のご住職にお話を伺った際にもこの寺の信仰には鰻が非常に関わっているということで、何故、仏教の虚空蔵信仰と黒潮の生物・鰻が関連するのかは民俗学的な課題となります。延命寺の地域社会における性格を知るために、今回これらの4体の仏像を挙げて頂いたというのは非常

に意義があります。延命寺は葬祭寺院になるのでしょうか。檀家はお持ちでしょうか。

事務局 檀家をお持ちになっています。江戸時代にはこの辺りはこの延命寺か近隣の勝蔵院のいずれかの檀家になっていたようです。

佐野委員 今回は市の指定ということですが、今後もっと評価を受けて上の方の指定になると、この利根川流域の民間信仰を知る上での中心になっていくかもしれません。

藤木委員 馬頭観音像の台座に石を仕込んでいるというのがやはり目を引きましたが、この台座は仏像の製作と同時に詔えたものなののでしょうか。それとも後から安定のためにこのような台座を詔えたのでしょうか。

眞田委員 仏像と台座が同時代のものということの方が珍しい事例で、殆ど場合は後から台座を製作したり修理したりということになりますので、この台座に関してもその可能性が高いと思われます。台座を製作する際には、やはり安定感に腐心するんですが、通常ですと木や竹の釘で留めたり、あるいは直接釘を打ったりするんですけども今回のように石で固定するというのはまず考えられない方法になります。他にいくらでも安定感を増す方法はあるにも関わらずこの石で固定しているということは、仏像の考え方としては不合理になります。なのでやはり先に像がある状態で台座が製作されて、その際に石が台座に埋め込まれたと考えられます。今後もし台座の修理等で機会があればこの石の全容を確認してみたいと思います。

藤木委員 像底の内刳はこの石に合わせて後から彫られたものということでしょうか。

眞田委員 おっしゃる通りで石に合わせて後から彫られたものになります。また余談になりますけれども、現在長野県立歴史館で安曇野の仏像の展覧会が開催されています。そこで今回の像と同じくらいの大きさの馬頭観音像が展示されていて、これもやはり長野のあたりの街道の馬を供養するために製作された像ということで、色々な地域でこのサイズの馬頭観音像を作って馬の供養をしているという実態が確認できました。こういったことも踏まえてやはりこの台座の石について、より詳細が判明すると、生鮮街道についてもより深く分かるのではないかと感じました。

古里会長 他にございませんか。なければ事務局の方で残りの手続きをお願いします。

事務局 ありがとうございます。それでは今回の答申案をもちまして、本会の答申とさせていただきます。この後の流れとしましては、この答申に古里会長の押印を頂きまして、それをもって文化財の指定について次回の教育委員会に議案として挙げさせて頂く流れになっております。

古里会長 それでは次の議題に移りたいと思います。その他について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは報告事項について説明させていただきます。資料4をご覧ください。報告1としまして、「榎本家庭園の国登録記念物（名勝地関係）への意見具申について」になります。榎本家は布佐地区にある旧家で、江戸時代、利根川の舟運で名士となったお宅です。榎本家住宅は利根川の改修によって現在の場所に屋敷地を構えましたが、布佐の河岸の様子を現在に伝える場所となっています。令和4年の文化財審議会において榎本家住宅より、屋敷建物の今後について相談を受けて協議した結果、本人所有のまま国の登録文化財にするという方向で進めることとなりました。その際、建物と庭園を分けて別々に国登録にかけるということになりまして、建物については本会冒頭に菊地部長もおっしゃられていましたが、昨年度12月に無事に国登録文化財になりました。そこで今年度は庭園部分の登録に向けた国への意見具申を行うことになっています。この名勝地関係の登録につきましては、県内でも3例目で我孫子市では初めての事例になります。この庭園部分については令和4年度に文化庁の実査が行われ、昨年度登録に向けた調査を完了しています。今年度は年内の意見具申の提出を目指し、令和8年度夏の文化審議会で登録となる見込みです。この件につきましては、また進捗がありましたらご報告させていただきます。

次に旧井上家住宅の修繕予定箇所の報告になります。まず駐車場の鉄の門扉につきまして、日常の管理業務を簡便にする目的で門の軽量化を予定しています。次に母屋の集水桝についてですが、こちらは形状が歪んでしまっていますのでその修復を行いたいと考えています。あわせてこの集水桝の脇の軒下に破損がありまして、小動物などが侵入する恐れがあることからこちらも修繕する予定です。次に縁側の建具につきまして、一部外れてしまっている部分がありまして、専門の業者へはめ直しを依頼する予定です。また裏門の棟窓の楔打ちを予定しています。

次に志賀直哉草稿の発見についての報告になります。資料と一緒にチラシを配布させて頂いておりますが、昨年度市内の個人の方より小熊太郎吉という市内で剥製屋を営んでいた人物の関連資料群を市に寄贈して頂きました。この資料群の中から志賀直哉の小説『暗夜行路』の草稿が発見されました。こちらを志賀直哉の研究者である同志社女子大学の生井知子先生に鑑定して頂いたところ志賀直哉

の直筆に間違いはないということで、10月31日より白樺文学館で特別展を開催することとなりました。またこの草稿については今後市の指定文化財の候補に挙げさせて頂きたいと考えております。

次に東源寺の榎の木についてご報告させていただきます。この木は県の指定文化財で戦前に指定されたものになります。今回東源寺の住職より例年に比べ樹勢が悪いということで連絡を頂き、現在県の文化財課と協議をしているところです。この木については平成5年に一度土壌改良や外科治療を行っています。その後平成27年にも診断を行いましたがこの際には、平成5年の加療により新たな措置は必要ないということでしたが、この年から市の方で毎年施肥を行っています。今年の3月にも施肥を行いました、その後も樹勢が芳しくないため、9月に県文化財の職員と県の文化財審議会の委員の先生に来ていただき、状況を確認して頂くことになっています。

次に令和6年度の埋蔵文化財発掘調査についてご報告させていただきます。資料5をご覧ください。まず調査件数ですが、確認調査14件、本調査3件の合計17件になります。次に調査成果としまして、本調査3件についてご報告いたします。高野山北遺跡第20次調査では、こちらA地点とB地点がありまして、A地点で縄文時代竪穴住居4軒・土坑4基、奈良・平安時代竪穴建物4棟、B地点で縄文時代竪穴住居1軒が確認されています。またB地点では動物骨も確認されています。チアミ遺跡第23次調査では、奈良・平安時代竪穴建物1棟が確認されています。高野山北遺跡第22次調査では、奈良・平安時代竪穴建物2棟が確認されています。資料には高野山北遺跡第20次調査の図面及び関係する写真を載せさせて頂いております。写真1枚目はA地点の6号竪穴建物で奈良時代初頭の遺構になります。2枚目は同じくA地点2号竪穴住居の遺物の検出状況で写っている土器は縄文時代中期のもので、ほぼ完形に復元されました。3枚目はB地点の1号竪穴住居で縄文時代晩期の住居跡になります。4枚目は2月に行われた縄文時代に関する講演会の様子でこの高野山北遺跡第20次調査の成果についても発表があり、現地には実際に出土した土器なども展示しましたが来場者からは非常に好評を頂きました。報告は以上になります。

古里会長 事務局の報告について、ご意見はありますか。

佐野委員 今回発掘された高野山という地名は何か仏教的な由来があるのでしょうか。

事務局 これまでの発掘調査ではそういった古代の寺院等が見つかっているということはありません。この高野山は市役所もある高台の上になりますのでそういった地形名ではないかと思われます。

西川副会長 この小熊太郎吉という方は、我孫子の偉人ということですが、こういった方なのでしょうか。

事務局 小熊太郎吉は我孫子駅の近くで剥製屋を営んでいた人物で元は学校の教員もされていた方です。今回寄贈された資料は約500点で、その中に志賀直哉の草稿も含まれていました。他の資料としましては元教員ということもあり、教育関連の資料も多く含まれています。この人物は、志賀直哉たちとは一回り上の年代で所謂我孫子の教養人といった評価ができる人物だと考えられます。彼は文芸にも関心があったようで、自分で回覧雑誌を発行していた他にも、杉村楚人冠とも交流していたようです。旧宿場町関連の資料が発見されるとそれを楚人冠に見せに行ったということが記録に残っています。また剥製屋を営んでいたということで、自然科学にも造詣が深かったようで、こちらはまだ寄贈には至っていませんが昆虫標本などの資料も数多くあります。他にも神道にも関心が高かったようで我孫子地区の八坂神社や香取神社の社務にも関わっていたようです。

この人物についてはこれまで志賀直哉の全集に「小熊」という人物についての記述は確認されていましたが、今回その人物の資料的な裏付けが取れたという形になります。今回の特別展では志賀直哉の草稿がメインになりますのでそこまで深くは掘り下げられないのですが、今後この小熊太郎吉についても調査を進めていきたいと考えております。

古里会長 高野山北遺跡では動物骨が出土したそうですが、具体的にはどのようなものが出ていますでしょうか。

事務局 動物骨については、劣化が激しく種別の同定は難しい状況でした。他には貝でヤマトシジミが確認されています。B 地点の1号竪穴住居は縄文時代晩期と推定されますので、下ヶ戸貝塚と同様の状況と考えられます。

古里会長 他にございませんか。なければ、議題は以上となりますので本会はこれにて閉会と致します。